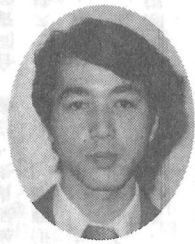


成人式 大人の仲間入り

私は昨年の四月で二十歳になったのですが、その時、自分は成人したんだと、言う自覚とか、成人

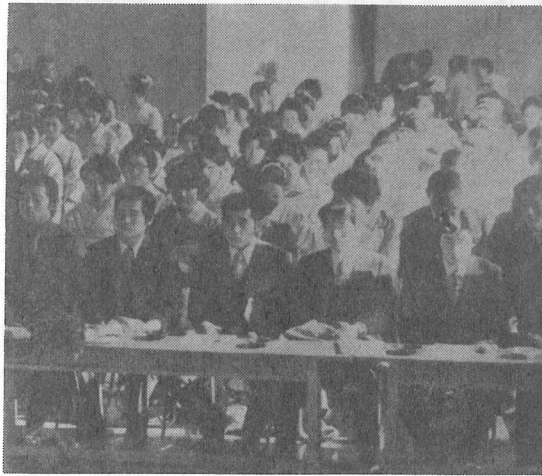


宝米 小川光男

大人としての 自分の在り方

「成人の日」を祝って、東陽小学校体育館で、午前十時から成人式典が行なわれました。ことし晴れて大人の仲間入りする成人者は二三四名です。会場には多くの来賓の方々が出席され、成人者たちを祝いました。

したからと言って、抱負などと言うものはありませんでした。最近になって成人あるいは、成人式について考えてみました。けじめをつけることはいいのですが、二十歳で成人式をすることは無意味に思えてしかたがありません。それならなぜ参加したか、と言われれば先ず「一生に一度しか経験できない。」とか、「なつかしい友に会える。」からだと思えます。私の場合、高校卒業後、直ぐ就職し、その時から物価高に悩ま



れながら独立して、生活しており。会社においては未成年だからと言って、甘えや妥協は許されなかったわけです。

また、二十歳になったからやっとな酒、たばこをやれると言うこともありませんでした。いろいろ理由はありますが、私にとつては十九歳(すなわち就職した年)が、未成年から成人への過渡期だったと思います。

とにかく、今日のこの成人式を機会に、今後大人としての自分の在り方、あるいは今後の抱負を立て、それに向って努力して行きたいと思えます。

勇気・創造と 信頼・平和

台 鈴木睦子



私たちはこの成人式を境にして「未成年」に別れを告げ、一人前の社会人として、法律的に認められるようになります。「今日から社会人」と言われても私たちは皆さまざまな事情のもとにいます。すべてが同じ気持で、この喜ばしい成人式をむかえるとともに、た

だ手放しには喜べない複雑な気持ちでむかえています。私たちは、物質的にも一番恵まれた時代に生まれ育ってきました。

しかし、今、未熟な私たちにも世の中に危機がせまりつつあるのを肌で感ぜずにはいられません。このような状況のもとに成人式をむかえ、そして、これからの世を生きてゆく私たちにとって、第一に必要なことは、先ず勇気と創造ではないかと思えます。この現代において、私たち若者が社会の一員であることを自覚し、清潔な態度で創造的、そして建設的精神に燃えて社会づくりにいそしまねばいけない、そう思います。

第二に今ほど人びとの間において、信頼と平和とが望まれる時代はないように思われます。それは他の人の言うことをよく聞き、理解することが大切だと思えます。私たちは若さにまかせて、ややもすると、この狭い知識から独断におち入りがちです。先人、先輩の言葉に謙虚な気持で耳を傾ける。そう言う態度を大切にしたいと思

います。これからの世の中をよくするか、悪くするか、私たち若者の力にかかっていることを忘れたくないと思えます。今の私たちは、何よりも精神的な独立、精神的に「一人前の大人になったのだ。」と、言うことを自覚しなければいけないと考えて

います。それぞれ環境は違いますが、考え方も皆んな違うかも知れませんが、どんな環境にいるにしてもそれぞれが、独立した一人の人間として、これから自分で自分に責任を持って、元氣な青春の日を送りたい。そう願っていると

思います。私の場合は女性ですが、日本の伝統とか、長い間の習慣から今日になっても、私たち女性の心の中には、人に頼ろうとする気持が多いように思われます。これは私の場合もやはりそうです。今、私は二十歳をむかえて、これからは「自主的な生き方」をしたいと言う気持で一杯です。

私は次のようなことを耳にしたことがあります。イギリスでは、息子が成年に達すると、父親は子供に玄関の鍵を渡すそうです。つまり今日から一人前の大人になったのだから何時に帰ろうと、自分で鍵を開けて入っておいでと、言う意味らしいのです。しかしそれを受け取った息子は、しめたばかり毎晩、夜更しをしたりするのはなく、その日から自分の社会人としての責任を、感じるわけなのです。ここで私は、自分自身の心の中で、その鍵を受け取りたいと思います。そして、その鍵で開けるのは、夜おそく寝静まった我が家の玄関ではなく、自分自身の生活の